

(縁・円・援)

兵庫えんだよい

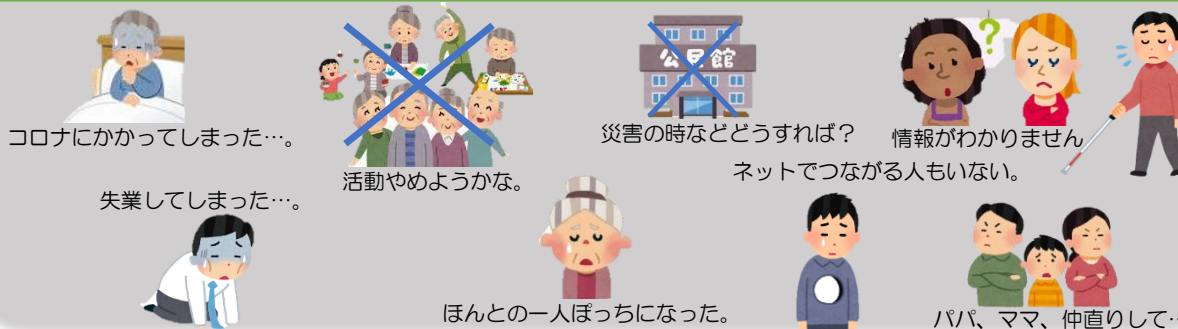


このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

コロナ禍で、新たな困りごと、住民の小さなつながりを見つける

コロナ禍で今まで経験したことがない状況が起きようとしています。高齢者だけでなく、障害者、生活困窮者、子ども、学生、感染者とその家族、ワクチン接種ができない方、オンライン等についていけない方等の不安や孤立等。今回は、コロナ禍の地域で、活動自粛のなかの小さなつながりに着目してみました。

コロナ禍で活動自粛だけでなく、さまざまな不安・孤立が起きています。



コロナにかかってしまった…

失業してしまった…

活動やめようかな。

災害の時などどうすれば？

情報がわかりません
ネットでつながる人もいない。

ほとんどの一人ぼっちになった。

パパ、ママ、仲直りして…

県内の地域の活動を聞き取ってみました：近隣でつながる小さな地域づくり

コロナに感染した？地域でこんなことが

ある町の地域活動者のAさんのお話です。

Aさんは、旅行好きな近隣のBさんをいつも気にかけておられました。ある日「いつも出掛けしている車がずっと止まっているけど、なんかあったの？」とBさんがAさんに電話。「じつは、夫がコロナにかかって、私も出られないの…」「それは、たいへん！」と、Bさんは、Aさんが家から出られない間、お買い物をしてドアノブに品物をかけ、「いま、お買い物してきたよ」と電話をしたり、窓から手を振ったりすることが2週間続きました。

濃厚接触者になって、ご近所同士のつながりの大切さを実感したAさん。「Bさんのためにと考えていたつながりが生かされました」と話されました。

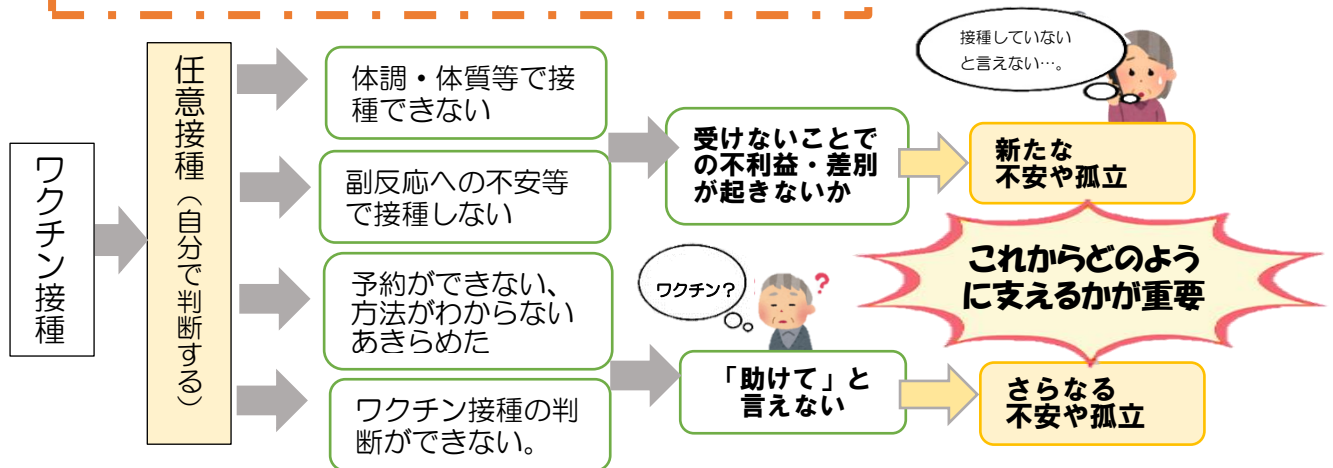
地域の小さなつながりはまだまだたくさんあります。ほんの一部ですが紹介します。

- 今までのつながりで、ご近所で声をかけあっています。
- 緊急事態宣言下でもボランティアグループがゴミ出し等の活動をしています。
- 老人クラブで声をかけたり、民生児童委員・高校生・大学生が「お助け隊」になってくれたりして、ワクチン接種の予約のお手伝いを行っています。
- 住民同士で相談の窓口（不満や情報提供等）を開いています。
- 自治会が実施する「お出かけ支援」を「ワクチン送迎支援」にしています。

ポイント

今までのつながり、新たなつながりがコロナ禍を乗り越えるきっかけになりそう。

「不安や孤立を抱える」人とともに



コロナ禍で「つながり」をさらなる活動のきっかけに

もしもの時に備えてつながりを切らない(明石市)

常設型の居場所を運営するボランティアグループは、「みんながドアを閉める時だからこそ」と、葛藤を抱えつつ感染対策をしながら居場所のドアは閉めませんでした。

また、ワクチンの不安が強い高齢者のため勉強会を開催し、ワクチンのこと、予約方法のこと、接種できない人への配慮などを学び、ネットでの予約や予診票記入のお手伝いを社協職員等の協力を得て行いました。

さらに、毎月の一人暮らし高齢者等の訪問時にも困りごとがないか声を掛けます。リーダーは「こんな時だからこそ、もしものに備えてつながりを切らない。このまちでひとりでも悲しい思いをさせないように」と笑顔で話してくれました。

ポイント

どこかに、だれかにつながっているという意識があるだけでも住民の支えになるのではないのでしょうか。



コロナ禍で活動者とともに歩む(三木市)

サロン活動者は、この一年、悩み、話し合い学んできました。感染予防対策を講じた集いの開催や集えなくなった分、増やした訪問活動。その際、よく耳にしたのが「予防接種の案内きたけど、どないしたらええんやろ？」の声。5月より、市内10か所の公民館でインターネットによる予防接種の予約代行がスタートしたことから、公民館に行きにくい高齢者を「ほっとかれへん」とあるサロン活動者が「一緒に行く、ついて帰る」という支援を行いました。一時は、予約した方の約65%が公民館による代行。任意だけど、ワクチンをあきらめる人を減らしたいという思いで行動を起こしました。訪問時の話題は、ワクチン以外にも熱中症、長雨等、健康や防犯・防災の話題提供を意識して行うように心がけています。「訪問回数を増やすことで集いでは気づかなかったご本人の暮らしぶりを知ることができた。」「暮らしぶりに触れ、コロナ禍だけ取り組みたい活動が見つかった。」と話されるサロン活動者。コロナ禍をきっかけに、ますますエンパワーしていく姿をこれからも気にかけていきます。

ポイント

未曾有の出来事に正解はありません。活動者とともに揺れながら考えていくのも地域活動のあり方ではないでしょうか。



【編集後記】 昨年の「えんがわナビ」等の交流から生活支援 Co の課題が明らかになりました。そして、今年は、新たに始めた「生活支援 CO ネットワーク企画会議」を通じて、解決につながる具体的な方法を探っていきます。

また、地域では、災害や熱中症等の危険な時期が迫っています。コロナ禍でつながりが弱くなり、新たな問題が起きている時こそ、住民の命を守るためにも、地域の小さなつながりを大切に育てていくことが必要だと感じました。